

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

清代～近代における経学の断絶と連続：目録学の視角から

(Dis)Continuity of Jingxue from the Qing Period through to the Modern Age:

From the Perspective of Muluxue

2. 研究代表者氏名

竹元規人

Takemoto Norihito

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(3年目)

4. 研究目的

中国は独自の伝統的学術を有し、それは長い歴史のなかで大きな変遷をたどって来た。本研究は、その学術の清代から近代にかけての断絶と連続を、次の視角から明らかにすることを目的とする。まず、章学誠の「六経皆史」説などを根拠として、「経学から史学へ」という命題が中国近世・近代思想史において言われるが、学術の淵源と展開を跡付け、学術を分類しながらその統一的把握を図る章の目録学の立場から出発して、経学が史学を含む様々な学術へと転換する契機を清代学術史の中に探る。次に、「六経皆史」への解釈等、清代学術に関する通説的理解がいかにして確立してきたのか、清末以来の学術史の言説を見直すことで跡付ける。最後に、第一の視角によって得られた清代学術史の見通しの上に、第二の視角から跡付けられた近代学術史を位置づけることで、二つの視角を総合し、それによって清代から近代にかけての、経学の断絶と連続とを、鳥瞰的に明らかにする。

China has its own traditional scholarship, which has undergone a great deal of change throughout its long history. The purpose of this study is to clarify the (dis)continuity of Chinese scholarship from the Qing period to the modern era using the following perspectives. First, based on Zhang Xuecheng's contribution to Muluxue, we look for those opportunities in the history of scholarship throughout the Qing period that have allowed for the transformation of Jingxue into various academic disciplines, including history. Zhang's Muluxue traced the origins and development of scholarship, classified it, and tried to present it in a unified manner. The theory of "Liu Jing Jie Shi (the Six Classics are all history)" does not necessarily only apply to the transformation "from Jingxue to history". Second, we trace how the commonly held understanding of Qing scholarship, such as the interpretation of the

theory of “Liu Jing Jie Shi “, was established by reviewing the discourse on the history of scholarship that has occurred since the late Qing period. Finally, we combine these two points of view to provide a bird's-eye view of the (dis)continuity of Jingxue from the Qing period through to the modern era.

5. 本年度の研究実施状況

定例の研究会においては、一通り完成した『文史通義』内篇訳注について、全体を見直して再検討を加えるとともに、章学誠の学術構想を通して古代から近現代に至る中国学術史を俯瞰する研究論集『章学誠の可能性』の刊行に向けた、班員による研究発表を行った。

2022年7月には、関西大学東西学術研究所との共催による国際シンポジウムを行い、近代の日本・中国における章学誠研究の開始・展開が、20世紀の中国学に与えたインパクトと意義を考察・討議した。

2023年3月には、国際ワークショップ「中国近代における経書の受容と変容」を開催し、章学誠の目錄学の視角を踏まえながら、中国近代において経書がどのように再認識され、経学がいかなる思想的・学術的意味を持ちつつ展開したか、多角的に検討した。

『『文史通義』内篇五訳注』を『東方學報』に掲載し、それによって『文史通義』内篇の訳注刊行を完結させることができた。

6. 本年度の研究実施内容

2022-04-19 成果出版に向けて、班長・副班長から趣旨説明とご相談 司会 古勝隆一

2022-05-17 『文史通義』訳注の再検討 発表者 新田元規 徳島大学総合科学部

2022-06-14 研究発表 余嘉錫の章学誠理解：継承と批判 発表者 古勝隆一 戴震と章学誠と胡適：乾嘉への接続と学術史の文脈 発表者 竹元規人 福岡教育大学教育学部 19世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説：史論家・思想家への道 発表者 永田知之

2022-07-16 『文史通義』訳注の再検討 発表者 新田元規 徳島大学総合科学部

2022-10-18 研究発表 朱陸折衷論の系譜と章学誠 発表者 福谷彬 人間・環境学研究科

『尚書』の体例をめぐる一考察：章学誠「書無定体」説を手がかりとして 発表者 内山直樹 千葉大学

2022-11-27 研究発表 章学誠<文史・校讎の学>における義と例 発表者 渡邊大 文教大学文学部 張爾田と『文史通義』 発表者 竹元規人 福岡教育大学教育学部

2022-12-21 研究発表 劉咸炘と章学誠 発表者 田尻健太 文学研究科 章学誠の伝記体テクスト論 発表者 成田健太郎 文学研究科

2023-01-17 研究発表 章学誠の『史記』認識からみた史記学 発表者 李弘喆 上海師範大学 中国と日本における「源流」観：章学誠を手がかりに 発表者 重田みち 早稲田大学演劇博物館

2023-02-21 研究発表 章学誠の可能性—総論 発表者 古勝隆一 人文科学研究所 章学誠の

文章論と「読者の反応」——『文史通義』内篇「俗嫌」を中心として 発表者 永田知之
人文科学研究所

2023-03-19 国際ワークショップ「中国近代における経書の受容と変容」 高亨の『周易』
研究について 発表者 陳佑真 帝京大学 『春秋』から『尚書』へ二つの今古文論争 発
表者 竹元規人 福岡教育大学教育学部 近代詩經學的跨文化闡釋 発表者 邱惠芬 長庚科
技大學 康有為の『春秋』観—今文学「微言大義」の視点から 発表者 吉田勉 北海道教
育大学 「層累遞進・融凝成體」之孔學—錢穆《論語》解析論 発表者 金培懿 台湾師範大
学

7. 共同研究会に関連した公表実績

2022年7月31日に、国際シンポジウム「近代日本・中国における章学誠研究熱の形成と
そのインパクト—内藤湖南、胡適および20世紀中国学の諸相—」を、関西大学東西学術研
究所との共催により開催することができた。

「『文史通義』内篇五詁注」(『東方學報』97号、二〇二二年一二月)を『東方學報』に掲載
することができた。

2023年3月19日に、国際ワークショップ「中国近代における経書の受容と変容」を開催
することができた。

8. 研究班員

所内

古勝隆一、永田知之、藤井律之、白須裕之、楊維公

学内

福谷彬(人間環境学研究科)、宇佐美文理(京都大学大学院文学研究科)、道坂昭廣(京都大学
大学院人間環境学研究科)、王孫涵之(京都大学大学院文学研究科)、臧魯寧(京都大学大学院
文学研究科)、王歆(京都大学大学院文学研究科)、田尻健太(京都大学大学院文学研究科)、成
田健太郎(京都大学大学院文学研究科)

学外

竹元規人(福岡教育大学教育学部)、内山直樹(千葉大学)、白石將人(三重大学)、小島明子(新
潟大学)、古橋紀宏(香川大学・教育学部)、新田元規(徳島大学・総合科学部・准教授)、渡邊
大(文教大学・文学部)、重田みち(早稲田大学・演劇博物館)、山口智弘(駒澤大学・文学部)、
中原佑真(帝京大学・文学部)、馬延輝(清華大学・歴史学系)、李弘喆(上海師範大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(1)	(0)	(1)	(0)		(1)	(12)	(12)	(12)
学内(法人内)	1	13	4	6	6	3	117	28	51	51	34
国立大学	6	6	0	1	0	0	36	0	8	0	0
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	3	4	0	0	1	0	21	0	0	6	0
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	2	2	2	1	1	1	8	8	8	8	0
その他 ※											
計	12	25	6	8	8	4	182	36	67	65	34
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要		(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(33)	(12)	(20)	(18)	(12)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	2		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1		0	
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	13		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0		0	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名 (必須)	掲載 論文 数(必 須)	掲載 年月日 (必 須)	論文名(必須)	発表者名(必須)
1	中国美術 史の眺望	1	R5.3	風景描写の意味—杜甫詩の風景 表現—	<u>宇佐美文理</u>
2	中國思想 史研究 44	1	R5.3	崔靈恩の『三禮義宗』—鄭玄注 から南北朝經学へ	<u>田尻健太</u>
3	敦煌写本 研究年報 17	1	R5.3	書儀と罪の意識—死者を悼む言 葉の定型化	永田知之
4	文教大学 言語文化 研究所紀 要 35	1	R5.3	『史記』をどう読むか—著述史 の観点から—	<u>渡邊大</u>
5	東方学報 97	1	R4.12	『文史通義』内篇五詁注	竹元規人、古勝隆一、 <u>渡邊大</u> 、 <u>内山直樹</u> 、 藤井律之、 <u>田尻健太</u> 、 <u>重田みち</u> 、永田知之、 <u>福谷彬</u> 、 <u>新田元規</u> 、 <u>山口智弘</u>
6	人間社会 文化研究 30	1	R4.12	湯來賀とその「水戸侯宰相上公 六十壽序」	<u>新田元規</u>
7	日本漢籍 受容史： 日本文化 の基層	1	R4.12	漢籍の分類と『日本国見在書目 録』	<u>内山直樹</u>
8	東方学報 97	1	R4.12	義疏概念の形成と定立	<u>王孫涵之</u>
9	東方学報 97	1	R4.12	漢字の意味と構造についての論 理学的な試論 — 文字論と字符 論を手掛かりにして	白須裕之
10	東洋史研 究 81-3	1	R4.12	蘇轍『孟子解』に見るその歴史 思想	<u>陳佑真</u>

11	宋代とは何か	1	R4.11	道学研究の最前線	<u>福谷彬</u>
12	中国文学報 96	1	R4.10	『管錐編』「文賦」訳注（二）	<u>成田健太郎</u>
13	香川大学国文研究 47	1	R4.9	漢魏における「帝魁」伝説	<u>古橋紀宏</u>
14	伝統文化研究編	1	R4.7	室町時代の芸道書に見る芸の場所柄・時節・機会——諸ジャンルの心得を比較する	<u>重田みち</u>
15	汲古 81	1	R4.6	江戸時代における叢書『説鈴』の利用についての小考	楊維公
16	中国文学報 95	1	R4.4	『管錐編』「文賦」訳注（一）	<u>成田健太郎</u>

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書なし

12. 博士学位を取得した学生の数(人)

	人数
博士学位を取得した学生の数	1

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由なし

14. 次年度の研究実施計画なし

15. 次年度の経費なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

今年度研究班において準備を進めてきた、研究論集『章学誠の可能性』について、今後も準備を継続して再来年に刊行する予定である。

本研究班において訳注を発表してきた『文史通義』内篇について、全体に編集を加え、単

行本として刊行することを目指す。

その他、本研究班において得られた知見を基礎として、清代から近代に至る中国学術史に関連する研究を、国内外の研究者の協力を得つつ展開し、成果を公表していく。